

## 19.山もない、海から遠い、平坦地だから災害には無縁？ 思わぬ伏兵に要注意！

自然災害は、例えると辻斬りのようだし被害はクラスター爆弾のようでもあります。辻斬りは夜間、路上で行きずりの人を切るといってもない行為ではありますが、全く突然にという意味で自然災害と同じです。自然災害の中には豪雨災害のようにある程度災害になりそうだという予感を感じるものもありますが、被害者にとっては予期せぬ突発事件です。その自然災害も、豪雨の場合でも水が大量になって浸水や氾濫、あるいは洪水といったものだけでなく、土砂災害やダム放流による洪水などの波及的な被害が発生します。クラスター爆弾は、クラスターは群れとか集団、房という意味ですが、一つの爆弾から多くの子爆弾が発射されるもので、被害が広域に拡大されることから恐れられるものです。自然災害も誘因は一つであってもその影響は広く、大きく、想像しないところにまで及ぶということになります。

最近、豪雨災害が台風や線状降水帯という集中豪雨による災害が多くなってきています。当然ながら川の水位が上がって、破堤、溢水が起きますし、山間部ではがけ崩れや地すべり、山体崩壊、土石流といった土砂災害が起きてきます。この辺のところは警報や勧告ということで注意や避難が情報として広報されます。このようなときに、都市部では河川に近接していなければ自分たちには関係ないように思われるでしょうが、実はとんでもないことが起きて驚かされることがあります。その一つは、上流から大量の水と流木が流されてくると、橋脚などに引っかかって閉塞し周囲がみるみるうちに河川の水が周囲に広がり浸水するということが少なくありません。そうすると外は危険ですので、できるだけ高い階に避難して救助を待つということになります。外出が危険なのは、側溝や水路、マンホールなどが濁水で見えなくなっていることで大変危険なことになりますし、流木などでの怪我也想定されます。また、川が近くにないのに瞬く間に住宅地内一面が湖のようになって驚かされることもあります。これは、最近増えているところの内水氾濫です。下水道の排水が機能しないあるいは能力を超えて氾濫するものです。どこから水が来たのかと思うほどです。

土砂災害の現場でよく聞くことでは、普段は水がなく、これまで崩れたという話を聞いたことがないというところで、土砂が流れ出して家屋が被害を受けたということです。その後調査をしてみると、気づいていなかったような兆候がいくつか存在していたこともあり、まったくなにもないことはなく、突然でもなく、それなりの素因があつて豪雨が誘因であるということを実感します。理由のないものはないということです。

想定外とか、聞いていなかったとか、まさかをなくすには、自然災害はいつでもどこでも起きうるのだと関心を持つことが大事なことであると思います。そして、自分の暮らしている環境を知っておくことが大切です。豪雨にしろ、地震にしろ、それによる被害はほとんど想定することが不可能なことばかりですが、何か起きるかもしれないという素因を理解して備えることは大切なことだと思います。